

トピックス

(現地情報) 梅調味液を用いた水田雑草管理

1. はじめに

農業試験場では、梅干製造過程で発生する梅調味液を水田に施用すると、田面表層の酸化還元電位が低下し、水田雑草の発生量が減少する技術を開発した(農試ニュース116号)。2014年3月には「梅調味液を利用した水田雑草管理マニュアル」を作成したので、利用して頂きたい。

(株)たがみ(田辺市)では、この技術を利用して栽培したお米を「熊野米」として販売し、昨年度、フード・アクション・ニッポンアワード2013で入賞した。

2. 普及状況と栽培上の問題点

2014年における「熊野米」の栽培面積は、白浜町や那智勝浦町を中心に約11ha栽培している。

この技術は梅調味液の施用時の労力、分解臭、処理後に残った雑草の発生が問題となる。施用時の労力はフォークリフトの活用や作型分散で対応可能であるが、分解臭は避けることができないため、民家から離れた場所での利用を進めている。効果を高めるために水管理を徹底するとともに、必要に応じて残存雑草に対して中後期除草剤を施用する。また、本技術だけでは雑草の発生を完全に抑えることが難しいため、中～成苗の密植栽培による田面遮蔽効果等との併用が望ましい。なお、散布にあたっては廃棄物処理法や地元保健所の指導を遵守願いたい。

(環境部 林恭弘)



写真1 梅調味液の施用

トピックス

平成26年度に開催する研究会、成果発表会

- ・「臭化メチル剤から完全に脱却した産地適合型栽培マニュアルの開発」現地検討会兼技術講習会(中央農業研究センター主催、5月29、30日和歌山市、農業試験場)
- ・イチゴ栽培技術研究会(県イチゴ生産組合連合会と共同開催、8月22日)
- ・「太陽熱土壌消毒効果を活用した省エネ・省肥料・親環境栽培体系「陽熱プラス」の確立」現地検討会(中央農業研究センター主催、8月下旬みなべ町、農業試験場)
- ・スプレーギク品種検討会(和歌山県スプレーマム研究会主催、8月22日)
- ・水稻研究会(9月上旬)
- ・ふれあいデー(11月8日)
- ・農業試験場・暖地園芸センター研究成果発表会(1～2月)

人事異動 -平成26年4月1日付け-

【転入】

- 林 恭平(環境部主査研究員)
- 菱池政志(環境部主査研究員)
- 久保敦義(栽培部現業技能員)
- 堺 勇人(栽培部研究員 新規採用)

【転出】

- 井上夏葉(果樹園芸課主査)
- 松下修門(農業大学校副主査)
- 田中寿弥(日高振興局農業振興課副主査)
- 大岩和也(農業大学校現業技能員)

和歌山県農業試験場
農業試験場ニュース No.123
平成26年7月1日発行

編集・発行 和歌山県農業試験場

〒640-0423 和歌山県紀の川市貴志川町高尾160
電話：0736-64-2300(代) FAX：0736-65-2016
<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070109/gaiyou/001/001.htm>

